〇議　事　日　程

令和３年１２月２日（木）午前１０時開会

令和３年度第２回守口市総合教育会議

〇出　席　者　（６名）

市　長	西　端　勝　樹
教育長	太　田　知　啓
教育長職務代理者	江　端　源　治
教育委員	杉　岡　佐緒理
教育委員	田　中　滿公子
教育委員	古　川　知　子

〇事務局

副市長	中村誠仁
理事兼会計管理者	工藤恵司
企画財政部長	西川謙太
企画課長	仲嶋浩平
企画課長代理	宮崎啓吾
企画課主任	吉本博樹
企画課主査	山下愛美
教育監	森田大輔
教育部長	大西和也
教育総務課長	加藤久隆
学校管理課長	酒田宗利
学校教育課長	棹本達也
学校教育課長代理	岡崎洋平
学校教育課主幹	水野敦夫

学校教育課主任	平山 いづみ
保健給食課長	後藤勝義
教育センター長	佐々木 幸子
教育センター主任	西尾勇佑

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

◇ 午前１０時００分開会

○西端市長　　皆さん、おはようございます。ただいまから令和３年度第２回守口市総合教育会議を開会したいと存じます。

教育委員の皆様方におかれましては、日頃より守口市の教育行政の発展にご尽力をいただきまして誠にありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。また、本日は大変お忙しい中、ご参集を賜りまして誠にありがとうございます。本日も活発なご議論、ご意見をいただければと存じますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速でございますが、議事に移りたいと思います。これ以降の議事進行は先日の会議と同様に、活発なご議論や意見交換を実施する観点から、企画財政部に司会をお願いいたしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局　　ただいま市長からご指名を受けましたので、これ以降の進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

早速ではございますが、お手元の次第にございます議題１「学力の向上について」を説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局　　失礼いたします。

それでは、学力向上への取組の成果等についてご説明いたします。こちらは、平成30年度から令和２年度までの守口市学力向上プランです。授業改善の推進と自学自習力の育成を２本柱として取組を進めてきました。今年度より新たなプランを作成し、市内全体でこれらに基づき学力向上への取組を推進しています。前回プランから２本柱は継承し、それらの２本柱で９年間を見通し、組織的に進めることを強調しています。２本柱の具体的な取組については７つ示しており、これらは市内の研究校をはじめ各校の好事例を集約したものとして示しております。また、ＩＣＴ機器の効果的な活用についても２本柱を促進させるものとして位置づけ、学力向上への取組を進めております。

ここで２本柱の１つ、自学自習力の育成の取組のひとつとして今年度より開始した、中学校等放課後学習支援事業についてご説明いたします。概要につきましては、資料１－４にお示ししております。ここで、実際の様子をご覧いただきた

いと思います。

まず、生徒３名までに対し１名の指導員がついています。学校で使用している教科書に準拠したテキストにより、学校で学習した内容が学べます。習熟度に合わせて、よりきめ細やかな指導が必要な場合は１対１の指導等を行っています。

全体の様子です。基本は３人に１人の指導員、個別型学習を行っています。

さらに個別指導が必要な場合は１対１等、柔軟に対応しています。

分からない箇所は指導員が個別に教え、時にはグループの生徒同士で理解を深める場面もあります。

さて、生徒や保護者からも初回のアンケートでこのような声をいただいております。肯定的な声を多数いただいております。初回のテストやアンケート結果は資料に記載のとおりですが、今後は中間のテスト、アンケート結果も踏まえて事業内容を分析し、事業者と今後に向けての協議を重ね、より充実した内容にしてまいります。

さて学力向上への取組の成果ですが、２点と考えています。その根拠はといいますと、全国学力・学習状況調査結果の分析につきましては、資料１－１で前回お伝えしておりますので、今回は２つの切り口でお示しできればと思います。まずは散布図、通過率、同一集団経年変化です。資料１－３も併せてご参照ください。

まずは通過率についてです。通過率とは、全国平均正答率70％以上の問題のうち、市町村も平均正答率が70％以上となっている問題を通過とし、市町村の通過した問題数と全国で通過した問題数との比較を割合で示したものを通過率と示しています。つまり、多くの子どもたちが正答できた問題と言い換えられ、100％に近づくほど基本的な問題は概ね定着していたと考えられます。その結果データがこちらです。まず、小学校６年生の通過率です。グラフ上の丸とその数字は、大阪府下43市町村の位置を示しているものです。横軸が国語、縦軸が算数の通過率で、右上に位置するほど通過率が高い。つまり、基本的な問題の定着状況が良好な市町村です。43市町村のうち、守口市はこの位置です。国語は通過率が100％と全問通過しております。算数では未通過の問題がありましたが、その正答率はいずれも70％から３％未満に収まっています。次に、中学校３年生の通過率です。横軸が国語、縦軸が数学の通過率です。４３市町村のうち、守口市はこの位置です。国語、数学の通過率は、それぞれ75％、83.3％でしたが、未通過の問題の正答率は小学校同様、いずれも70％から３％未満に収まっており、児童生徒の基礎的、基本的な学力は概ね定着していたといえます。

続いて、小中一貫教育の成果を同一集団の経年変化のデータ分析にてお示しいたします。こちらは平成30年度に６年生であった児童が今年度、中学校３年生時にどのような結果であったかを表したものであり、グラフ上の丸とその数字は、大阪府下43市町村の位置を示しているものです。まずは平均正答率の対全国比の伸び率についてです。横軸が国語、縦軸が算数・数学の小から中にかけての伸び率を示しています。守口市はこの位置で、２教科とも伸びている傾向のグループ

に位置づいており、43市町村のうち５番目ぐらいの伸び率といえます。小から中にかけて正答率は着実に向上しております。続いてこちら、全国学力・学習状況調査のうち、記述式問題正答率の対全国比の伸び率です。同じく横軸が国語、縦軸が算数・数学の伸び率です。守口市の位置はここで、先ほどと同様、２教科とも伸びている傾向のグループに位置付いており、43市町村の中でも上位に位置づいております。特に国語の記述式問題については、府内で３番目の伸び率となっております。記述式問題ということで思考・判断・表現力を問う問題が多く、その正答率は小から中にかけて大きく伸びていることが分かり、小中一貫教育が進んでいる成果といえます。

２項目、研究校の成果について、資料１－２も併せてご参照ください。まずは、この取組の市内への広がりを具体的に示し、その後、研究校の児童生徒の学力が向上している結果をお示しします。小さな研究授業、教科の枠を超えることで、学力向上に向けた取組が学校全体で組織的に進んでいく良さがあります。学校ごとに研究テーマに沿った参観シートを作成し、授業研究を進めています。家庭学習週間です。中学校区での取組で、学校、地域、保護者と連携した自学自習力育成への取組を行っています。自主的に学習する習慣の定着を目指して、自主学習に活用できるプリントを自由に取れるように棚を設置している学校もあります。家庭学習の手引きを作成している学校もあり、時間の目安や内容、課題の例示等を児童生徒、保護者と共有することで、家庭とも連携して自学自習力の育成につなげています。また、これらは教職員のベクトルをそろえる意味でも重要な手引きとなっています。

さて、研究校の全国学力・学習状況調査の対全国比での経年比較ですが、平成29年から大阪府の加配を活用し、学校の学力向上に係るコーディネート役とする教員を配置したＡ小学校では、学校での学力向上に向けた取組が加配教員を中心に学校全体でより組織的に進められ、その後、向上傾向となっております。同様に、加配を配置したＢ中学校です。Ｃ小学校です。研究校の児童生徒の学力は向上傾向にあります。繰り返しになりますが、全国学力・学習状況調査において児童生徒の基礎的、基本的な学力は概ね定着しており、小学校６年生から中学校３年生にかけての伸び率も高く、それらの成果は授業改善が着実に進んでいる結果であり、授業改善が進んでいるのは研究校の取組を始め、各校での良い取組が市内で広がっていることの表れであり、各校が守口市の指針である守口市学力向上プランで掲げている授業改善の推進、自学自習力の育成の２本柱に沿って取組を着実に進めている成果といえます。したがって今後の方向性については、ぶれずに守口市学力向上プランで掲げている、９年間を見通した組織的な研究体制のもと行う授業改善の推進、自学自習力の育成の２本柱の取組を促進させるため、ＩＣＴ機器も効果的に活用し、児童生徒の確かな学びを保障していきます。

成果については先ほどからお示ししているとおりですが、一方で家庭学習習慣や読書習慣等、自学自習力の育成には依然として課題があります。また、組織的な取組が進んでいる研究校では成果が見られているものの、市全体ではまだまだ

組織改善が必要な学校もあります。良い取組をさらに波及させ、市全体の学力の底上げが必要であると考えます。「もりぐち」を合い言葉に、市全体で同じ目標に向かい学力向上への取組推進を引き続き行ってまいります。以上でございます。

○事務局　　ありがとうございます。

説明が終わりました。学力の向上に係る取組は、ご案内のとおり本市の最重要施策にもなっております。子どもたちの健やかな育ちはもちろん、子育て世代の定住の観点からも今後、効果的な取組を鋭意推進していかなければならない課題でもありますので、ぜひとも皆様方の積極的なご意見やご提案などをいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

○古川教育委員　　先日、小学校と中学校、1校ずつ視察させていただきまして、初めての視察でしたが、いずれの学校も校長先生が自校の学力向上の課題を明確に意識しておられまして、学校の中でもそういう一つの授業のスタイル、そういったことの提案などに取り組んでおられる様子を見せていただきました。一方で、教育委員会の指導主事が一つの学校の担当を継続して支援しておられて、組織的に取り組んでおられる様子も見せていただきまして、各学校の学力が伸びることがやはり市全体の学力の向上につながると思いますので、そういう意味で組織体制が組まれてきているんだなと感じました。

今後ですけれども、やっぱり教育委員会と学校がそれぞれの学校の実情を踏まえた課題を共有して取り組まれることが大事かなと思いまして、校長先生が教職員のモチベーションを大事にしながら、リーダーシップを発揮できるような支援とかが必要かなと感じた次第です。

○事務局　　ありがとうございます。他にございませんか。

○江端教育長職務代理者　　学力の向上についてですが、そのベースになるのは、やっぱり生きる力だと私は思います。９月13日の第１回総合教育会議において守口市の教育理念である「郷土を誇りに思い、夢と志を持って」ということが大事ですと申し上げました。それがどうしたら高まっていくのか、抽象的な表現ばかりで申し訳ないが、やっぱり守口市の教職員の熱量だと思います。どれだけ熱い思いを持っているかという。どうしたらそれが高まるかは、それぞれの小学校長のリーダーシップの発揮による指導等なわけですが、例えば今、古川委員がおっしゃったようにモチベーションを高める、これは大事ですね。色々とアイデアが出ると思います。特に若い教員からは、あれをしてみたい、これをしてみたい、試してみたいという。それを摘むようなことは絶対にしていないと思いますけども、やらせてやってほしいです。それは、前にやって失敗したとか、そういう白けたことを言うんじゃなく、やっぱり試してみて良いものはどんどん続けていくというスピード感とフットワークの軽さをぜひ持ってもらいたいと思います。めざす守口の教育に書いてあることは全部、おやりになったらいいと思います。それをどれだけ本気で取り組むかが一番大事だろうと思います。いつも抽象的な表現ばかりで申し訳ない。

○事務局　　ほかに今の説明を聞いて、何かご意見とかございませんでしょうか。

○西端市長　　今、お二方の委員さんから学力向上の取組ということで一生懸命に頑張って、教育委員会も頑張っている。これからも、私もお二人の委員と同じで、市長部局においても若い世代の職員の意見を幹部職員が摘むんじゃなくて、しっかりとそれを育てるようにということで我々も取り組んでいるところです。教育委員会としても教育長が今、それをやっていただいていると思いますが、今、学力向上ということで小学校、中学校においてもまだまだ大阪府の平均、また全国の平均まで達していないのはあると思います。これがこれからどう伸びていくかを見ていかないといかんとは思いますけれども、そのやり方、そこまで持っていく過程ですね、これをどういうふうに教育委員会としては考えておられるのかなと思うんですがどうですか。

○事務局　　今、市長からありましたように、市のそういった全国学力・学習状況調査の平均正答率についてはまだ全国平均を下回っている結果ではございますけれども、問題数、平均正答数で全国との比較をしますと、その差は１問以内に全ての教科が収まっている状況です。まず、子どもたちが、先ほどプレゼンテーションでもお示ししたように、基礎的な学習について一定、定着を図れている、頑張っている状況があると認識しています。全国平均を下回っている結果につきましては、分析しますと、先ほどもお伝えしている下位層の子どもたちの割合が全国の子どもたちと比べて多い状況がございます。そこで今年度も、先ほどご説明させていただいた土曜日学習、放課後学習等を実施しながら、子どもたちの学習習慣等を今、定着する取組をしているところです。こういったことを継続していきたいと考えています。

　また、組織的な研究体制が取れているかは、先ほど古川委員からありました、視察いただいた２校はまさしく組織的な研究がなされている学校であり、先ほどグラフでお示しした全国学力・学習状況調査においても結果としてきちっと表れている学校でございます。そういった学校を増やしていく、良い取組を広げていくことが本市の子どもたちの学びを深めていくことにつながると考えますので、今後も引き続き学力向上プランにのっとって、先ほど江端委員のご意見もありましたように、教職員のモチベーションを高めながら、取組を高めていきたいと考えているところです。

○西端市長　　学力を高めるために、各学校では具体的に何かやっていますか。モチベーションを高めないことには駄目だと思います。高めるためには何か、各校でどういうふうな取組をしているのでしょうか。

○事務局　　各学校でこの組織的な体制の下、研究を進めていくために、１人で授業研究をするのではなく、先ほどスライドにもありました小集団で、小さな研究会と呼んでいますが、３人ぐらいの教員でグループをつくって、普段の授業をお互いに研究し合う取組をしています。そのときに、経験の浅い教員も自分のやってみたい授業をまず試してみて、それを先輩教員からまたアドバイスももらいながら、やる気を高めながら普段の授業改善を進めています。また、１年間に複数回、校内全体で授業を研究する取組をしています。その取組も当日の研究会だ

けを取組とするのではなく、そこに至るまでの取組として先生方が子ども役になってひとつの授業をみんなで研究したり、そういったことを通じてみんなで子どもたちの立場になってどのような授業をしていくべきかを検証し合っています。そのようなことをすることでモチベーションをまた高めて、単に他の教員から授業を見られて色々な指導、助言を受けるとなりますとモチベーションが下がってしまう恐れもありますので、みんなで授業を研究しながら、楽しみながら子どもたちの学びを深めていく、そういった取組をしているところです。

○西端市長　　今は徐々に学力が上がってきていますね。これがその平均値まで行くには大体、教育委員会としては何年ぐらいのスパンが必要かという、その分析はできていますか。

○事務局　　学力向上プランを新たに定めて、今は１年目です。このプランを３年間でやり切ろうと考えていますので、このプランを実施する３年間でそういった数値目標についても達成できたらとは考えています。ただ、数値だけではなく、子どもたちの普段の授業の学びをやっぱり見ることが大事だと考えています。子どもたちが単に知識を吸収するのではなくて、学んだことを自分の言葉で友達に伝えたりという活動を通して本当の学びができると考えていますので、そういった状況を教育委員会としましても授業を見に行かせていただいて、学校の取組が子どもたちの本当に必要な力を高める取組となっていくことを見ながら確認していきたいと考えています。

○事務局　　どうでしょうか。田中委員や杉岡委員も、何かございましたらお願いします。

○杉岡教育委員　　私がちょっと気になったのは全国学力・学習状況調査の守口市の結果概要で、家庭での読書時間が少なく、読書習慣に課題があるという件ですけども、本を読む習慣がない子に家で本を読めと言っても、なかなか読書好きな子にはなってくれません。やっぱり身近に本が借りられるとか手に取れるとか、環境が大切ではないかなと思っています。私も地域の方や学校の方が参加されている学校運営協議会に参加させていただいていて、そこでも読書ボランティア、学校図書館を開けたりしてくれるボランティアさんを募集しようということで今、動いているところですけども、やっぱりボランティアさんや学校だけで頑張ろうと思ってもなかなかできないので、そこにやっぱり司書さんの力が入って、子どもたちが毎日でも行きたくなるような、また司書さんに毎日でも相談できるような環境づくりが大切じゃないかなと思っています。そういったことで、今回のことでもあったと思いますが、無回答の子どもさんもいるということなので、無回答の子を少しでも減らしていくことが学力アップにもつながっていくのではないかなと考えています。

○事務局　　ありがとうございます。

○田中教育委員　　私も本当に、どんなふうにしたら無回答のお子さんのモチベーションを少しでも上げていけるか。それは、校長先生をトップとした組織全体で支えていくことが必要だと思いますが、資料１－１、先ほどのご説明の中にも

ありましたけれども、全国学力・学習状況調査から見えてきた守口市の課題ということで、一つが思考力・判断力・表現力の育成が課題であると分析しておられます。まさに思考力・判断力・表現力が21世紀型のスキル、つまり文化が時代で、これからどんな社会になっていくか分からない。特にこの２年間はコロナ禍で社会全体も、もちろん社会の中の一つである教育という領域でも本当に正解がない、そういう世界でどうしていったらいいのかを思考して、判断して、そして自分の考えを臆さずに表現できると言えばいいでしょうか、そういうことがやっぱり全国のこの調査結果から浮き彫りになっていますけれども、本当に守口だけではなくて全国、世界での課題ではないかなと思っております。

やっぱり、教える側も今までとちょっと違う視点、今までと違う、どう言えばいいでしょう、感覚というか、なかなか、非認知能力に当たるのでなかなか言語化できないかもしれないですけれども、それって何かなと考える姿勢も大切ではないかなと思います。特に、正解がない問題を意識的に用意することは既にやっておられると思いますけれども、ただ、一つの観点として、もしお話しさせていただけるとしたら、私たちや教員も正解がないことにあまり慣れていないと言えばいいでしょうか、つい答えを求めがちになりますけれども、そこはやっぱり、子どもたちなら考えられると、目の前の子どもたちだったら考えられると信じて待ってあげると言ったらいいでしょうか。それはちょっと、数字的なエビデンスとは真逆になるかもしれないですけれども、目には見えないけれども本当に信じて待ってあげるという姿勢を学校全体の先生たちが、校長先生も含めて持ったら、それは非常に、パワフルと言えばいいでしょうか、結果を出してくるのではないかと、私はそのように思っています。それは、実は子どもたちの本当に興味、関心の自分自身のスイッチを何かこう自分で見つけて自分で押すみたいな、そういうイメージを私は持ちますけれども、もしそれが押せたら、やっぱり本を読みたいとか、色々な情報を、このことについて知りたいと入っていく一つの流れができていったらいいなあと思います。非常に抽象的な言い方ですけれども、そのように思いました。

〇事務局　　ありがとうございます。今、先生方の意見で共通していたのは、無回答の生徒をいかに減らしていったらどうかというようなご提案があったと思いますが、その点についてはいかがでしょうか。

〇古川教育委員　　さっき各学校の学力を向上させたいと申し上げましたが、今度は各学校において一人ひとりの子どもの学力に注目していくという、今後はそういう施策が必要ではないかと思っています。安心な学校づくりというんですかね。例えば不登校で学校に行けない子どもに関して、視察させていただいた学校では本当にケース会議も頻繁にしておられるとお伺いしました。これは他市の例ですけれども、不登校の子どもに対応する中学校の先生が毎日の記録をきめ細かくとっておられるんですね。そのことにすごく時間を費やしておられますが、対応が一様です。不登校の子どもは、やっぱり色々な背景があると思います。その際に教員だけで何とかしようというよりかは、例えばスクールカウンセラーやス

クールソーシャルワーカー、関係部局とかと連携しながら、色々な知恵を絞りつつ個々の一人ひとりの子どもがどこでつまずいているのか、見立てをした上で不登校の子どもへの対応とか、そういう思い悩んでいる子どもへの対応をしていくことがこれからさらに必要ではないかなと感じております。

一つだけエピソードですけど、うちの学生が来年４月から小学校の教壇に立たせていただきますけど、算数の模擬授業がすごく分かりやすかったので、得意だったのと話をしていたら、中学に入っても九九が分からなかったと言うんです。むしろ嫌いだったと。それが何か周りの先生がとても関わってくださって、克服して。だから逆に苦手だったから子どものつまずきが分かる、分かりやすい授業を展開することができて、多分、中学校の先生は、九九が分からない子が小学校の先生になるとは絶対に想像しておられなかったと思いますけれども、一人ひとりの力に着目することが大事かなと考えております。

〇事務局　　ありがとうございます。教育長、何かございますか。

〇太田教育長　　私から３点ほどお話をさせていただこうと思います。１つは、さっきの発表についてですが、これまで教育委員会も本市の子どもたちの学力の分析について、踏み込んで分析してこなかったのかなと反省しておりますが、さきほど発表していただいたとおり、今回は本市独自の分析の視点で分析してくれました。今までは、全国の調査結果や大阪府のやり方をそのまま本市に入れて分析していたので、単にグラフを作っていたにとどまっていましたが、今回は学力の研究指定校での学力の同一の子どもの伸びを見るなど、詳細に分析してくれたので若い指導主事の力は本当に大きいと思っております。これから教育委員会の事務局の中でも指導主事の新しい発想での分析を進めて、各学校にその結果を還元していかなければならないと感じました。

あと２つ目は、学力調査について改めて考えさせられたなと思いました。全国学力調査でもとかくペーパーテストの正答率のところだけが注目されますが、私は、全国学力調査の設計に携わった人間ですが、子どもたちの学力をもっと広く捉えておりまして、ペーパーテストだけで見られるところは学力の一部です。今日、学力は、知識や技能だけではなくて、思考力・判断力・表現力、それから３つ目に学びに向かう力や人間性、この３つをバランスよく育成していくことを今の学習指導要領も重視しており、世界的にも共通認識されております。保護者の方、それから企業の方も今までの知識偏重の学力観から脱却して、ＡＩ時代だからこその人間らしさ、思考力・判断力・表現力、あるいは人と協働して何か課題を解決するような力が求められていると思います。全国学力調査も少しでも把握できているところを見ようとしていますが、それはペーパーテストだけでは計れないので、アンケート調査という形で把握しております。

我々はその点も分析しておりまして、アンケート調査の結果で見ると、例えば、今日の資料の中にもありますが、「学校の友達と関わり合い、話合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすること」があると思います。こういうところで高い数値を示している。これは長年、各学校の授業にもそういった学習活動を

入れた授業に改善してきた成果が出て、経年で伸びていっている面もあります。ほかにも、「自分で計画をして勉強する」という点が学びに向かう力も高まっておりますので、そういったところも含めて学力を総合的に捉えて、どこが弱いのかをきちんと分析して、ペーパーテストのことだけ見るのではなくて、全体で押し上げていかねばならないと思っております。特に学びに向かう力がないと、知識を獲得するような学習にもつながらない面が指摘されておりますので、学力は全体をきちっと把握して、それを伸ばすように授業改善をしていかねばならないと思っております。

あと関連して、教育委員会の反省でもありますが、今、社会から求められている学力観、それから今、学校で進めている授業改善は社会全体、市民の方に説明していくことが、まだまだ不足しているなと反省しております。これから守口の子どもたちにこういう力を身につける教育を進めており、今、ここまで身に付きましたと分かりやすく広めていかねばならないなと思いました。また指導主事と力を合わせてそういった取組をしていきたいと思っています。

あと、学力観に関連しますが、やっぱり全国学力・学習調査は、始まってから20年近くになりますが、社会が大きく変化し、社会から求められている学力をもう十分に把握できないような面もあります。それは何かというと、ペーパーテストだけでは制約があって、今、国でもコンピューターベースのテストを開発しています。ペーパーテストと何が違うのかというと、ペーパーテストは、問題の中に含まれている答えを考えますが、コンピューターベースのテストは色々な、ホームページのような画面を用意し、そこには、正解とは関係ないような情報も用意し、たくさんの情報の中から自分で何が正しいのかを判断していく、階層になっている画面を自分で進んでいって、自分の必要な情報にたどり着くような力や複数の情報を組み合わせて自分の考えを導き出すというような力など、今までのペーパーテストでははかれなかった学力を、今、国でも開発を進めておりますので、本市もそういったものがこれからスタンダードになることを視野に入れて、授業改善をしていかねばならないと思っています。

学力調査結果などを詳細に見ていくと、各学校の状況も違う、一人ひとりの子どもたちによっても成績のばらつきは大きい状況です。これから進めていかねばならないのは、その子に合った学習方法や支援、指導を充実していかなければならないと思っています。タブレット端末を入れていただいたおかげで、その子に合った学習方法も少しバリエーションが広まってきたと思いますので、その子に合った学習方法をその子に合わせて見いだしていくことが重要だと思います。一人ひとりに合った学習支援を実施していくんだということを共通理解していかねばならないと感じております。

〇事務局　　ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

〇江端教育長職務代理者　　教育長が学力だけの目標ではなくとおっしゃって、私も実は気になっているデータがありまして、学力状況調査で、それは自己有用感というところですね。自分には良いところがあると思いますかという問いに対

して、半数以上が「ある」と思っておられますが、逆の見方をすると、結構少なくない人数が「自分はあかん」という感じを持ってしまっております。夢や目標を持っていますかという問いがありましたね。持っていると答えている子のほうが多いですが、持っていないという児童や生徒がやはりいますね。さらに小学校より中学校、大きくなるに従って、どんどん減っていっています。そういうことを、それこそどうしてだろうと、なかなか答えが出にくい問題にあえて目を向けて研修をなさったらいかがかなと思います。何か、ここかって気づきがあればやってみたら良いと思います。そのときに可能であれば、さっき田中委員がおっしゃった子どもたちが考えていることを引き出すという、どうしたら夢が持てるだろうとかいうようなことも加えてもらったら面白いんじゃないかなと思います。別にそんな難しく考えるんじゃなくて、例えば運動会は毎年やっていますよね。そのプログラムは多分、固定化していると思います。毎年、同じ内容をずっとやっている。何かおもろいことをやろうかと言って、提案してもらって、それはよく吟味してやらねばなりませんけれども、できるだけ成功の方向へ持っていけるようにしてあげたら自信もつくのかなと思います。自分たちの声も聞いてもらえる、届くという気持ちを持つことが非常に大事だと思います。

〇事務局　　ありがとうございます。事務局はいかがですか。

〇事務局　　今、江端委員からありました自己有用感と、子どもたちの心の面の育成についても重要なこと、事務局としても認識しているところです。今、ご提案がありましたような、例えばということで運動会の取組がありましたけれども、学校でこういった子どもたちの自主的な取組を広げていくことも改めて重要性を認識しましたので、また毎月行われている校長会等でこういったことの提案を事務局としてもさせていただく中で、子どもたちが楽しく学校生活を送れる、また、自主的、主体的に色々な取組をできるように努めてまいりたいと思います。

〇事務局　　他にございますでしょうか。

〇太田教育長　　前回も申し上げましたが、全国学力・学習状況調査で、色々な項目を調査しております。江端委員がおっしゃっていただいたように、自己有用感が低いことや地域への関わりが守口の子どもは少し低いのが非常に気になっています。守口の地域の方も協力的であり、地域には様々な文化もあるので、地域の人ともっと連携して、そして子どもたちが将来、地域の色々な課題を自分で解決したいと思うことを伸ばしていくのが非常に大事だと思っております。

〇事務局　　ありがとうございます。

〇田中教育委員　　私も先ほど江端委員が発言されましたことに関して少し話をさせていただきたいと思います。正解がない問題をなるべく考えさせる機会が増えたらいいですよねという話をしました。実は、それは言い換えると、子どもたち一人ひとりの多様性をできるだけ尊重していこうということで、古川委員がおっしゃいました個別の指導にもつながっていくことかと思いますけれども、やはりそのためには何か、先生たちが今までの枠組みで子どもたちを見ないように心がけるといったらいいでしょうか。そういう今までの枠組みといいますのが、多

分、江端委員がおっしゃいました固定化という言葉にもつながっていくと思いますけれども、もっと教える側が今までの枠組みにとらわれずに生徒を見るという、そういう姿勢が求められているのではないかなと江端委員の発言等をお聞かせいただいて感じた次第です

○事務局　　ありがとうございます。

そのほか、ございましたらお願いいたします。

○事務局　　子どもたちがこれから生きていくために必要な学力とは何なのかを、本当に広く色々な視点から教えていただけたように思います。我々としましても、これまでも本当に変化の激しい時代を子どもたちが主体的に、そして人と協働しながら幾多の壁も乗り越えていける、そういうたくましさ、そういう学力を身につけさせたいという思いでやってきております。本日、ご示唆いただきましたことをまた今後、事務局でも改めて検討させていただきまして、しっかりとそれを直接的に学校へ伝えさせていただいて共有を図りながら、本日、色々とご示唆いただきました学力を着実に身につけるように取り組んでまいりたいと考えております。我々としましては目標値ということで、学習状況の目標値を設定しながら各校の実態に合わせた目標値を設定し、取り組んでいるところですが、その中でやっぱり全国学力・学習状況調査は、我々が実施しておりますテストの中で、全国スケールで今の子どもたちの学力を見とれる一つの重要なツールとしても認識しております。先ほど申しました学力を身につけていくために、子どもたちの学び方はもちろんですが、まずは教員の授業研究のやり方も協働的な研究という形で大きく変えながら取り組んでおります。そういう取組を続けることが、おのずと一側面ではありますが学力調査の結果にもつながっていくと信じておりますので、これからもしっかりと取り組んでまいりたいと思います。本日、多岐にわたるご示唆ありがとうございました。

○事務局　　ありがとうございます。

○西端市長　　今、教育委員会にまとめていただきました。学校司書はどのように配置されていますか。杉岡委員から先ほど話がありましたけど、学校司書は全校に配置はしていないとのことですが、何校に司書は配置されていますか。

○事務局　今は原則として、中学校区に１名の司書を配置しております。毎日、司書は中学校区には学校が概ね３校ありますので、１日どこかの学校にはいる状況がつくられております。加えて、さつき学園では我々としても研究指定校としてやっておりますので、ほぼ常駐という形で司書がいる状況となっております。

○西端市長　教育委員会としては３校に１人の配置で十分という認識ですか。

○事務局　　事務局としましては先ほど杉岡委員からございましたように、子どもたちが図書室へ行った際に自分が探している本を、一緒に相談に乗ってもらえて見つけられたり、あるいは読書のまたヒントを得たりということの必要性を十分認識していますので、やはり各校に１名の司書がいるべきであると考えております。

○西端市長　　各校に１人の司書が必要だという認識なんですね。

○事務局　　そこは今後、検討をしていく必要があるということですね。
○太田教育長　　ちょっと補足です。やっぱり私も学校へ行くたびに、学校では図書館を見ています。現在は学校司書が、中学校区で１人ですけど、小学校の低学年と中学校では読書の支援の仕方は大きく違うと思っております。小学校では読書を自分でやる子はどんどんどんどん読みますが、家庭環境などでなかなか読書習慣が確立しない子どもたちに対しては、読み聞かせをするなどの丁寧な指導をして読書習慣を伸ばしていかねばならないと思いました。中学校に入ると、ぱたっと本を読まなくなってしまい、中学校の読書離れは本当に深刻だなと思っております。読書は、学力の向上だけではなく、生き方も豊かにしてくれるし、心理的な安定にも非常に有益なものなので、読書を習慣化することについて、着実に進めていかねばならないと思います。こうしたきめ細かな支援ができるように、充実を図っていきたいと思っています。
○事務局　　他に、ご意見はいかがですか。
○古川教育委員　　大学の海外研修で学生を連れていったときに、小学校でペンギンをみんなが調べているといったときに、図書室に色々なペンギンの本が置いてあったりして、学習内容に合わせたそういったレイアウトを司書の方がきめ細かくやっておられて、子どもたちは寝そべりながら本を読んだり、友達と何か話してみたり、すごくいいなというふうな光景がありまして、とても大事なことだと感じています。
○事務局　　ありがとうございます。
○西端市長　　学校の図書館の利用とか、土曜日学習会とか、これはやっぱり面白くなかったら来ないと思います。それが面白いようにみんな、読書でも何でも自分が面白いと思わさないことには、思ってもらわないと行ってくれないと思います。面白いと思ってもらえるような、江端委員がおっしゃったみたいに、四角四面ではなく、守口市の教育委員会もやっぱりちょっとやることが違うなと。そのような教育委員会にならんことには、教育長も国から来ていただいていますし、子どもたちに勉強、勉強というだけでは、ちょっと難しいと思います。だから、自分はこれが面白いから一生懸命にやろうという思いを持たさないことには、子どもの時から持たさないことには駄目だと思います。そう言う気持ちにしていくということに、教育委員会として今後どういうふうに取り組んでいくのか。それは今、ご意見もあったように運動会でも、子どもたちに決めてもらってやっていただくとか。そういうことは不可能なんですか。
○事務局　　今の運動会の取組等は、児童会等で種目を設定するという取組を行っています。
○西端市長　　やっているんですか。
○事務局　　全く行っていないわけではございません。子どもたちがそういった楽しくやる取組として、先ほどのスライドにもありましたけども、自主学習を本当にやってみようと思うために、今、広がりつつある取組としてプリントバイキングという名称をつけて、廊下にあるプリントから自分が好きなものを取って、

それを自主学習でやってくるという取組もあります。本当に学校施設、見に行きましたけども、棚のプリントがなくなっていくんですね。これ、やってみたいというプリントを先生方が工夫して置いておいて、それを子どもたちがどんどん自分で取ってやっていく。やったことをまたシール等を貼って成果を見える化するなど、各学校で取り組んでいる子どもたちを表彰するという取組も行っておりますので、今おっしゃってくださっているように子どもたちのやる気にスイッチを入れるような取組を今後とも進めていきたいと思います。

○江端教育長職務代理者　　子どもたちの声を聞くってものすごくエネルギーが必要です。面倒くさいときもある。

○西端市長　　面倒くさいときもあるでしょうね。

○江端教育長職務代理者　　だけど、それをやったら、子どもたちがその気になったら、教師は楽です。勉強してと言うてもしませんから。

○西端市長　　ですから、やっぱり勉強が面白いと思ってもらわないといけないと思います。思ってもらうところまで持っていかないと駄目です。それをみんなで考えてもらう必要がある。

○江端教育長職務代理者　　そういう観点で言えば、教職員集団になれば楽しいですね、仕事をしていてもね。しんどいですよ、仕事は。だけど面白かったら、次やろうかという気力が出てくるものです。

○西端市長　　我々としては学力を、いつまでにこれくらい上げろと言わないことには、予算もつけることができない。土曜日学習会も予算を投じてやってきた。ここに子どもたちに来ていただいて成果を上げないといけない。でも、やっぱりそこに行くについても、やっぱり土曜日学習会に行ったら色々な方に会えるから楽しいと思ってもらわないことには、行け、行けと言うだけでは駄目かなと思う。やっぱりムードづくりが大切、学校での。それがやっぱり一番だと思う。頑張ってくださっているけど。だから、事務局が言うように先生が色々と取組をしてくださっていたらね。私がこの会議体ができたからこうして皆さんとお話ができる。今までだったら、私は出られなかった。教育委員会でやっていただいた。それが今、教育会議には出していただけるから教育委員会の取組を知ることができる。教育委員会としても、やっぱり各学校が色々な取組をやっておられます。若手の先生がこうやって色々と新たな発想で、新たな試みでやっている授業もあると思う。それをここで、皆さんがいるところでプレゼンじゃないけど、発表していただいて、優秀な先生だなとちょっと労をねぎらうような、感謝状でも渡してね。そういうことを教育委員会でもそんなことをやったら良いと思うけどな。

○太田教育長　　ぜひ、やっていきたいと思います。

○西端市長　　それをやったら学校全体の教職員の雰囲気も変わるだろうし。

○江端教育長職務代理者　　ベストティーチャー賞とかですかね。結構しているところはありますよ。

○西端市長　　エナジーホールぐらいを借りて。教職員を皆呼んで、その場で我々も出席させていただいて、そこで発表するとかね。色々な取組をしないことには、

ただ単に会議をやっているだけでは子どもの気持ちも分からないし、ちょっと企画してもうたらどうかなと思います。
○太田教育長　　コロナ禍で様々な研修が止まっていましたけど、少しずつ再開しました。良い取組や工夫などを情報共有していかねばならないと思います。若い先生方が積極的にチャレンジできるような雰囲気もつくっていかねばならないなと思います。
○田中教育委員　　ちょっと関連してよろしいですか。私もすごく楽しく聞かせていただいていましたが、やっぱり良い実践とか良い取組とかを集めて、それを提示すること。本当に大事だなと思いますが、やはりそのときに教育委員会としては枠組みを持って実践を集めることが、実践を実践知にしていくことになると思います。例えば、大阪では教員等育成指標があって、キャリアステージに応じて幾つかの領域に分かれて、そのステージだったら、新任期であればこういう領域でこういう資質・能力が求められていると。その中にはもちろん授業力とか子ども理解とか、そういったものもありますけれども、例えば、何らかの枠組みとか軸となる理論といったらいいでしょうか、そういうものを持って好事例とかを集めて共有していくことは、本当に大切なことだなと思いました。
○事務局　　他になければ、一旦ここで次の議題に移らせていただこうと思います。
　それでは続きまして次第の、議題２に移らせていただきます。教育の情報化についての説明をよろしくお願いします。
○事務局　　よろしくお願いします。座らせていただきます。
　それでは教育センターより、教育の情報化についてご報告させていただきます。まず、教育の情報化には３つの側面があります。情報活用能力の育成や、プログラミング教育などの情報教育が１つ。校務支援システムの導入等による校務の情報化。また、この場では教科指導におけるＩＣＴの活用についてご説明いたします。現在、市ではＩＣＴを効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実現を目指して取り組んでおります。教科指導におけるＩＣＴの活用として、学習用タブレット端末の授業での活用を進めております。活用の目的は授業改善の推進、また自学自習力の育成です。市の学力向上プランに掲げるこの２つの柱を全市的に確実に達成するに当たり、ＩＣＴの活用は不可欠です。
　図の内側の水色の囲みは、主に学校で取り組んでいること。外側の白の囲みは、学校の取組を支える環境の整備や支援の内容を表しております。まず授業改善の推進については、市で導入した学習用デジタル教科書を活用しながら、今後はＩＣＴ支援員による授業支援をさらに充実させたいと考えております。また、自学自習力の育成については、高度なフィルタリングソフトの導入や、家庭の通信環境支援ができていることにより、安心して端末を使った家庭学習ができます。また、このような端末の活用ではオンラインが重要な要素となっています。オンラインなら教室でも、また家庭からでも同じように課題の受け取りや提出ができ、さらに学習成果を瞬時にクラス全体で共有することが可能となります。個別最適

な学びと協働的な学びを実現する。また、感染症等、様々な事情により登校できないときも学びを止めない。今年度は特にその観点を踏まえた実践を行っております。

それでは、授業での様子をご紹介いたします。まずは、小学校での例になります。この授業の流れでは、自分の考えをデジタルのカードに記入し、オクリンクというソフトを使用して先生に提出を行います。そして先生は、提出されたカードを一覧表示して、子どもたちは、友達とお互いの意見を共有することができるので、さらに自分の考えを練り直して深めるという展開を行っていきます。そこのスライドで赤字になっている部分については、オンラインが有効な部分となります。オンラインによって初めてできるようになること、格段に成果が上がること、また時間を置かずにリアルタイムでできるようになることを示しております。

では続いて、感染症の影響により登校できない子どもへの授業を配信している様子です。黒板を見やすい席に配信用のコンピューターを置いております。家から参加している子にも、まるで教室の席に座っているのと同じ状況を提供することができます。また、周りの友達が画面の向こうの友達に話しかけている様子が右の写真に写っているかと思います。この学校では全学級、全授業で同じルール、同じやり方で配信できる体制をとっており、先生も子どもたちも見通しを持って安心して取り組むことができております。従来の紙ベースでの家庭学習支援と比べて、オンライン授業では友達とのつながりを絶やさずに学級への帰属感も育むことができます。

３つ目の事例です。これは、小学校１年生の生活科での様子です。１年生でも簡単に使える機能で、意見を共有し、深める学びができております。この時間は、家事分担の偏りを見直して、子どもたちの気づきを促し、子どもがお家の仕事を進んでやろうとする意欲をかき立てる内容となっております。子どもが分担ごとに色分けしたカードを、先生が一覧表示にしています。色ごとの面積が一目瞭然となっていますので、役割分担の偏りなど、単元の中で最も大事な部分に子どもが自ら気づく仕掛けを、オンラインでは簡単につくることができます。

では、オクリンクでの協働学習やデジタル教科書活用の様子を動画でご覧いただければと思います。

今、このオクリンクに「雨」という漢字の成り立ちを絵で表しているところです。色を使って表現することもできます。

今、これが先生に転送している様子です。早くできた子どもたちも、待っているだけではなくて、ほかにできた子どもたちのものを見て学習を深めていくことができる時間を持っています。また、先生は、子どもたちの絵をプロジェクターに映して、子どもに前へ出てきてもらって、それを説明するという形で学習を進めています。これは実際に子どもが説明しているところです。

またその後、授業の後半で、今学習した内容をｉＰａｄに入っているデジタル教科書で確認しているところです。このような形で、色別で線を引いていくことも可能です。

今、紹介させていただいたような学習用タブレット端末の活用に、オンライン学習を掛け合わせることで、この３つの学習形態を自在に組み合わせて、主体的、対話的、深い学びを実現させていこうと取り組んでおります。

今後の研究では、教科学習のねらいや付けたい学力を達成するための最適な学習形態を、先生や子どもが使い分け、選択できるようになることを目指しております。また、ＩＣＴ機器をまずは使ってみるという段階から、その先へと進みたいと考えております。ＩＣＴを活用することについては、既に結果として表れております。５月に実施された全国学力・学習状況調査において、肯定的回答が全国水準を大きく上回る結果となりました。先ほども写真や動画でご紹介したとおり、現在は全ての学校で授業や家庭での端末利用が大幅に広がっております。そして、１２月現在においては、さらに上昇傾向となっております。これらは、今後も推進していく上で大切なポイントとなっております。子どもたちの学力、学びに向かう力の育成においては、情報活用能力の育成、主体的・対話的、深い学びの実現、情報モラル教育、また家庭学習習慣の定着などを意識した取組を行います。各学校においてこれらに取り組んでいく上で、不安や妨げとなる要素をできる限り小さくするために十分な支援が必要となります。

その支援のうち、まず１つ目はデジタル教材の充実です。国としての本格導入を見据えた学習者用デジタル教科書の活用は必須となります。２つ目は指導用端末の整備です。整備することで、子どもたちのｉＰａｄや電子黒板との連携など、操作性が向上していきます。そして３つ目は、ネットワークの増強です。デジタル教材やソフトの使用が、今後も飛躍的に大幅に伸びていきます。滞りなく当たり前に学習が進む環境整備は今後、必須となります。以上、教育の情報化、とりわけ教科指導におけるＩＣＴの活用について、現状の取組と今後の方向性について報告といたします。

〇事務局　　ありがとうございました。

説明が終わりましたので、ただいまの教育の情報化に関する説明について、皆様方から忌憚のないご意見やご提案がございましたらお願いいたします。

〇江端教育長職務代理者　　質問ですけれども、ＩＣＴに関して教員それぞれの力量のばらつきは、だんだん減っていっていますか。人によって随分と違うのは具合が悪いので。

〇事務局　　今、導入が始まって１年、２年と経っているところで、教育センターからも先生方に研修を行ったり、また、各学校のＩＣＴの担当の先生方がおりますので、その先生方が中心となって各校で情報を共有したり、ＩＣＴ機器の活用方法についての研修を行ったりして、徐々に使える先生方が増え、そこから苦手とする先生にもどんどん広まっていくというような形で今、進めているところでございます。

〇江端教育長職務代理者　　そういうことを意識して進めていっていただきたいと思います。それともう一つ。先ほどの動画、面白いですね。あれ、ＹｏｕＴｕｂｅでアップとかしていますか。知ってもらわないと、保護者にも。

○事務局　　申し訳ありません。今、ＹｏｕＴｕｂｅにアップはしていないですが、また教育センターからも、先ほどのお話にありましたように、市民の方々に知ってもらう方法を考えていく必要があると思います。
○事務局　　ありがとうございます。他にございませんでしょうか。
○古川教育委員　　この間、視察に行かせていただいた際に、教室の机の上に普通にタブレットが置いてあって、思い思いに触って、授業を見学させていただいて、先生の指示で何か見ているのかなと思ったら全然画面が違う、調べ物みたいなこととかもしてあったので、進んでいるんだなと思っておりまして、大学でもＩＣＴの専門の先生がそういう授業の工夫を進めることももちろん大事だけれども、ノート、ペン代わりにずっと触っていることがとても大事ですとおっしゃっておられましたけど、本当にそういう環境が今、整いつつあると感じました。
○事務局　　ありがとうございます。他はいかがですか。
○杉岡教育委員　　家で使い方について子どもに聞かれたことがないぐらいに自由に使いこなしていて、調べ物をしたりして、本当に毎日助かっていますけども、その一方で、子どもからちょこちょこ聞くのが、タブレットを使ったちょっとしたトラブルですね。自由に写真を送ることができるので、友達に要らないものを送りつけてしまって、先生の目に触れて、その子たちがグループでまた先生から話を聞かれていたわという話をたまにですが、耳にすることがあるんですね。自由に使える一方で、やっぱりルールやモラルの勉強を今まで以上にしっかりまたご指導いただけたらと思っています。
○事務局　　ご意見ありがとうございます。子どもたち、本当に自由に使うことで色々なことの使用がまた広がっていったと思いますので、そういったことを推進しつつ、今、ご意見があったように、一方でモラル等もきちっと育成していかないと大きなトラブルになってしまいますので大事に取り組んでまいります。
○事務局　　補足でございますが、今、１人１台用のタブレットを整備することで、今おっしゃっていただいたような事例がこれまでよりも顕著に学校が把握できるような事例が増えてくるとは思っておりますが、我々としましては、小学１年生の段階から教育の中でタブレットを使い出すことで今まで以上に本当に発達段階に合わせた系統的な情報モラルの指導を進めることもできますし、本当に早い段階から正しい使い方を学校が関与しながら身につけさせていけると思っておりますので、そういうトラブルはしっかりと把握にも努めながら本当に計画的にそういう情報モラル教育を進めてまいりたいと考えております。
○事務局　　ありがとうございます。他はいかがでしょうか。
○太田教育長　　情報モラルの育成は大事な要素だと思っています。以前、教育委員会定例会でもご紹介しましたが、昨年度に松原市と泉南市と一緒に情報モラル教材「ＳＮＳノートおおさか」をつくって、子どもたちのタブレット端末に入れました。まだちょっと、活用がまだ進んでいないところもありますが、10月末に、作成に当たってアドバイスしていただいた静岡大学の塩田先生に各学校の教員向けに研修をオンラインでやっていただいて、本市の学校の先生方も参加しま

した。研修では、今までの情報モラル教育はどちらかというと、「これをやっては駄目」が中心だった面もありましたが、子どもたちが誘惑に負けそうな場面に、どうやったらそれをやらないようにするかとか、やり過ぎたらどういうデメリットがあるのかを、自分で考えるような仕掛けが重要なポイントだという講演をいただきました。情報モラルだけではなく生徒指導にも活かせると思いましたが、実際に起こり得る場面に即して子どもたちが自分で、正しく判断できる力を発達段階に応じてしっかり身につけていくことが大事だと思います。このＩＣＴ端末の活用と同時に、情報モラルの育成をしっかりと取り組んでいかねばならないと考えています。

〇事務局　　ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

〇西端市長　　守口もこれまでから電子黒板の導入を先駆けてやってまいりまして、タブレットについても本来なら令和３年度当初予算で購入というようなことがありましたけど、できるだけ早くということで令和２年にはもう導入するということで、令和２年度中に導入できました。今、見せていただきますと、我々の年代、杉岡委員が保護者代表でなっていただいていますけれども、保護者の皆さんがこういう使い方をしているというのは、色々な場面で子どもたちがこういうことで使っているとおっしゃったように、機種の使い方を子どもらはもう100％と言っていいほど分かっていると思います。使って、そういう授業をしていることは、先ほど江端委員のお話にもありましたように、これは守口のホームページでもどういう形でそれを出したらいかんのか分かりませんけどね、我々の年代ではそんな授業をしているのかという思い、また、そういう思いすらもないと思います。だから、市民の皆さんにもこういうふうなタブレットを守口で予算化して買って、いかに学力向上につなげているか。そのためにはこんな授業をしているということを教育委員会としてももっとＰＲして、市民の皆さんに知っていただく、このタブレットが子どもたちの学力向上に活かされている機会になっているということをＰＲできないのかな。教育委員会としては難しいですか。

〇事務局　　今、ＩＣＴ整備についてお話しいただきましたけども、守口市が進めております教育、本当に色々とご理解いただきながら、例えば新しい学びを実現可能とするような学校施設の整備であったり、報告がありましたように学習者用タブレット端末を整備、また全ての教室に電子黒板を整備いただいております。加えまして、昨年から全校で進めましたコミュニティ・スクールということで、本当に地域の方々とともに触れ合いや体験活動も大事にしながら進めさせていただいているような教育活動。さらに、先ほど報告がありました、例えば誰一人取りこぼさないという姿勢でやっております、民間活力を活用した土曜日学習会など、本当にそういう特色ある本市の教育の中で、子どもたちは本当にコロナ禍にも負けず本当によく友達と一緒に頑張ってくれている、そういう姿がございます。今、お話がありましたように、やっぱりそういう本市の教育を保護者のみならず市内外の皆様に知っていただいて、やっぱり教育が守口市の魅力の一つだと感じていただけるように、実は今、事務局でもホームページ等を活用した情報発信を

検討しまして取り組んでいるところでございます。また、事務局としましては今後、魅力創造発信課とも連携しまして、さらに積極的に本市の教育内容を伝えながら、先ほど教育長におっしゃっていただいたような、こういう学力を目指しているんだというところもしっかりと知っていただけるように努めてまいりたいと思っております。

○事務局　　ありがとうございます。

　私の企画財政部内に魅力創造発信課がございますので、しっかりと教育委員会とも連携しながら、もう市としてしっかりとＰＲできるように連携してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○太田教育長　　今日は学校教育課も教育センターも、短期間に良い動画を撮ってきてくれました。実際に、子どもたちがこんなことができるようになった様子を動画で見ていただくのが市民の方にも分かりやすいと思います。ぜひ動画での発信も、魅力創造発信課と相談しながら、また「もりぐちＴＶ」も活用させていただきたいと思います。

○事務局　　ありがとうございます。

　他にございませんでしょうか。

○田中教育委員　　大学で現職の先生たちと話しているとき、情報化に関して出てきた一つのエピソードですけれども、冒頭で江端委員からも先生たちの力量はどうなっているでしょうかみたいなお話があったかと思いますけれども、やはり苦手意識がある先生たちは、オールイングリッシュの発想と同じで、どうも全ての場面でＩＣＴを活用しなければならないという、そういう意識を持っておられる傾向があるようで、そうではなくて、本当にすばらしい取組、守口はされているなと思いますけれども、やっぱりそうではなくてアナログとデジタルをいかに組み合わせるか。先ほど教育長もおっしゃいましたように、やっぱり動画のほうが説得力がある場面も必ず授業ではあると思いますし、それは具体的にイメージできる強みだと思います。それと、子どもたちの中にやっぱり書いたり聞いたりすることがやや苦手という子どもたちもおりますので、そういう子どもたちにこういう場面でこう使えばいいなという授業のデザインをしていくことが大事だなというふうな話をしたことがあります。

○事務局　　ありがとうございます。

○事務局　　今、おっしゃっていただいたこと、本当にそのとおりだと思って、こちらも意識して取組を進められたらと考えています。やはりＩＣＴ機器を使うのが苦手な先生も確かにいらっしゃいます。市としてそういう先生方も分け隔てなく取り組んでいって、子どもたちに身につけねばならない力ではあると思いますので、例えばこちらは、これまでの授業づくりと本質的には何も変わらないと思っています。ただ、今までもちろん協働学習という観点で授業のデザインをしていきましたが、友達との意見を共有するところ、これまででしたら例えば班で意見を交換して、１枚のホワイトボードを使って、ホワイトボードにみんなの意見を集めてまとめてみようという活動がありましたが、そこをデジタルに置き換

える。または、色々な考えを持っている子どもたち、Ａと思った人、Ｂと思った人、は一いって手を挙げる場面がありますけれども、何人の手が挙がったねということで、意見の偏りや意見の集まり具合をみんなで確認していった部分をデジタルに置き換える。先ほどの動画でありましたけれども、こう思う、こう思うというのが、例えば色分けになると、先生が授業の中で確認の場面を取らずとも、子どもがみんなはどう思っているのかなと自分で気づこうとする、自分でその情報を得ようとする、そういう姿勢を育てることができる。そういう観点で子どもが気になったことを自分から情報をキャッチしていくことができるようになると思っています。でも、先生方のそういう利用がなければ、子どもの気持ちの芽を摘んでしまうことになりますので、本当に我々がみんなに入れている学習ソフト、先ほどもありましたがオクリンクというものを使って意見の集約と一覧表示、とにかくこの一点を覚えて、まず使っていくことから広がるのかなと。苦手な先生方についてはマニュアル等もたくさん用意はしていますけども、そのマニュアルにもたどり着けない、日々の色々な、多様な多忙感がある中のことですので、そこはこちらからもっと使いやすい方法を提案したり、もっとマニュアルを活用してもらったり、そしてそれに合わせて、我々のコメントがダイレクトに届くような、そういう仕組みが必要だなと感じておりますので、取り組もうとしているところです。

〇事務局　　ありがとうございます。他にございますか。

〇江端教育長職務代理者　　何でもかんでもＩＣＴじゃなくて、バランスを保っていただきたいと思います。一つ不安なのは、簡単に答えが出てくるものですから、分かっていないのに分かったと錯覚してしまうことがありますね。それが一番恐ろしいと思います。ですから、例えばタブレットを見ずに自分で言葉を探して、自分で発言してもらう。あるいは書くとか、我々も字が書けなくなってきておりますでしょう。そうしたことも、これは併用しないと駄目なので、できればバランスをとってやっていっていただきたいなと思います。

〇太田教育長　　実際に子どもたちに肌で体験させることが必要な学習内容は、実体験を重視した授業、学習活動をさせています。タブレット端末を使ってデジタルで学んだほうが良いのか、ホワイトボードのほうが書きやすい場合もあるので、学習活動に応じて工夫したり、あるいは子どもたちに選ばせたり、様々な工夫が進んできています。どうしても、子どもたちはタブレット端末を使いたいので、すぐタブレット端末に手が伸びてしまいがちですが、やはりそこは授業で、先生がうまく授業をマネジメントする必要がありタブレット端末で調べるのは一端、待たせて、まず自分で考えさせて、その後にタブレット端末を使って調べさせるなど、タブレット端末を使わせるタイミングで授業をデザインする力が、これからの先生に一番求められる力だと思いました。こうした活用事例を各学校間で共有して、効果的な授業づくりを進めていかなければならないなと思います。

〇事務局　　ありがとうございます。他にございますか。

〇太田教育長　　子どもたちはｉＰａｄを使っていますが、学校にはＷｉｎｄｏ

ｗｓパソコンがあります。先生方もＷｉｎｄｏｗｓでできることを積極的に活用してくれて、オンライン授業やあるいは授業での活用も積極的に行っています。ただし、残念ながら確かにできないことは、ｉＰａｄに入っているアプリ、実際に例えばプレゼン用ソフトのｋｅｙｎｏｔｅなど、Ａｐｐｌｅ社オリジナルのアプリを子どもたちは日常的に使っています。こうしたＡｐｐｌｅ社製のアプリはＷｉｎｄｏｗｓのパソコンでは使えないことが大きな課題になってきました。子どもたちの利用実態に合わせた先生方の指導を考えていくと、同じ端末はどうしても必要になってきていると実感しています。国の補正予算などの動きなども見据えながら、教員用端末の整備を計画的に考えて、また市長にもご相談していきたいと思っております。

○事務局　　それでは、よろしければ次の議題に移らせていただこうと思います。

では、続きまして議題３、令和４年度以降の学校教育の充実についてでございます。来年度の本市の学校教育運営方針につきましては、今後、文科省や大阪府から示される要請事項、それと現在、まさに私ども企画財政部の段階における予算ヒアリングを行っているところでございますので、今後具体化していくところにはなりますけれども、本日は教育委員会事務局として考えている今後の取組の方向性や問題意識について情報提供をしていただきたいと思います。

それでは、説明をお願いいたします。

○事務局　　それでは議題３、令和４年度以降の学校教育の充実について説明させていただきます。恐れ入りますが資料３－１及び３－２をご参照賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和４年度におきまして、新型コロナウイルス感染症の予防対策など、子どもの心と体の健康を守り、学力の向上や教育の情報化、老朽化した学校施設の対応など諸課題を解決できるよう、教育委員会では１、安全・安心な教育環境の整備、２、児童生徒の資質・能力の育成、３、ＧＩＧＡスクールの推進、４、生徒指導、特別支援教育の充実、５、学校機能の強化、６、コロナ禍での学びの保障、７、生涯学習の推進を重点施策として位置づけております。

具体的には、安全・安心な教育環境の整備においては、教育環境の改善に向け、既存校の老朽化対策に取組み、早期に課題解消を要する守口小学校の校舎棟及び屋内運動場の増築、長寿命化改修や計画的に小・中学校の屋内運動場への空調設備の整備について検討してまいります。

次に２、児童生徒の資質・能力育成においては、全国学力・学習状況調査の結果等を分析しながら、守口市学力向上プランを着実に推進するため、学力向上推進教員によるマネジメント機能を向上させつつ、学校図書館司書の配置拡充、学習者用タブレット端末を活用した電子書籍の整備、学校図書館のデータベース・ネットワーク化を通じて読書習慣を改善するとともに、英語指導助手の配置拡充や教材開発によって英語コミュニケーション力や郷土愛の育成に向けた教育の充実を図ってまいりたいと考えております。

３つ目のＧＩＧＡスクールの推進においては、学習者用端末等を積極的に活用

し、児童生徒の情報活用能力の育成や、主体的・協働的な学習を推進するため、指導者用タブレット端末の整備に加え、情報通信技術支援員、ＩＣＴ支援員の配置拡充、機器の不具合や家庭からの相談への対応等を行うＧＩＧＡスクール運営支援センターの整備や学習者用デジタル教科書の整備など、家庭でオンライン学習を行うための支援に取り組んでまいりたいと考えております。

次に４、生徒指導、特別支援教育の充実においては、不登校など不安や悩みを抱える児童生徒等の教育相談件数が増加していることから、スクールカウンセラー等の教育相談体制の充実や、障がいのある児童生徒一人一人のニーズに合わせた介助や学習活動の支援のため、特別支援教育支援員の充実に取り組んでまいりたいと考えております。また、摂食障害のある児童に対しても安全安心なきざみ食等を提供してまいりたいと考えております。

次に学校機能の強化においては、専門性のある外部人材や民間活力を活用した学校の部活動指導や水泳指導の充実、また、学校家庭間の連絡体制強化として児童生徒、保護者等への迅速な連絡が可能となるデジタル化に取組み、学校の時間外にも対応するコールセンターを活用した夜間、休日の緊急連絡体制を構築したいと考えております。

次に、コロナ禍での学びの保障でございます。新型コロナウイルス等の感染リスクの高い教育活動の制限下においても、感染防止対策を徹底した上での水泳指導を可能とするため、民間スイミングスクールと連携した水泳学習の充実に努めるとともに、学校の臨時休業や出席停止時のオンライン学習を行うための環境整備についても支援してまいりたいと考えております。

最後に、生涯学習の推進においては、読書活動のさらなる推進に向け、市立図書館に来館せずとも利用できる電子図書館システムの導入などの環境整備や、市立図書館と学校図書館とのネットワークの構築に努めてまいりたいと考えております。

以上、主な重点施策を列記しましたが、今後、限られた財源の中で優先順位をしっかりと見極め、選択と集中により予算編成等を通じて、めり張りのある教育予算の編成と学校現場のサポートに努め、学校教育と社会教育が一体となって、社会が加速度的に変化する中においても子どもたちが可能性を信じ、多様な人々と協働し、豊かな人間関係を築き、社会性を身につけながら心豊かでたくましく育つことができるように、生きる力と生涯学び続ける人の育成を目指して取り組んでまいります。

以上、甚だ簡単でございますが、議題３、令和４年度以降の学校教育の充実についての説明を終わります。

○事務局　　ありがとうございます。

説明が終わりました。今、ご紹介いただきました令和４年度以降の重点施策でございますが、繰り返しとなり、恐縮ですけれども、まさに今、企画財政部との間でのヒアリング、議論を始めたところでございますので、さらに最終的には市長査定を経て具体化することになりますので、この会議の場におきましては、例

えば本市のより大きな教育施策の流れとして妥当性や的確性、そういった観点などからご意見など賜れればと思いますし、気になる点とかでも結構ですけれども、そういった観点からご意見、ご提案などを頂戴できればと思います。いかがでしょうか。よろしくお願いします。

○江端教育長職務代理者　　それでは、これは私の個人的な見解でもありまして、色々と見せてもらって、やっぱり一番目立つのは、体育館の空調を入れてみることはすごく効果がありますし、喜ばれますね。５校だけ試験的になされて、どれだけすばらしくて、中学校のクラブ活動、真夏はもう３５度を軽く超えてきますので。あと、まさかのときに避難所にもなりますので、そういう意味でも目に見えて効果がありますので、非常に良いんじゃないかと思っています。

○事務局　　ありがとうございます。

○西端市長　　今、江端委員がおっしゃっていただきましたが、各体育館の空調設備も、議会からも質問でも出ていますし進めていかねばならない案件だとは思いますけど、今、守口市の施設の全体量として、審議会で詰めていただいている最中と思います。その答申をいただいて、しっかりと我々も、しないといけないことはしていかないといけないと思いますので、その答申をもらって、それから予算化するものについては、予算化するようにさせていただきたいなと思います。

○事務局　　ありがとうございます。他にございましたら、よろしくお願いします。

○杉岡教育委員　　教育相談についてですけども、発達障害とか不登校とか自傷行為とか、ほかに様々な悩みや問題を持っているお子さんや親御さんが本当に多くて、実際に教育現場で働いている身としても、コロナがあって、またさらに不安に思っている方も増えたように感じています。また、問題行動の低年齢化も進んでいまして、昔は何か荒れているといえば、中学校とかを想像しちゃいますけども、今は小学校で問題が起きていることが多い現状にあります。先月、小学校にも学校訪問をさせていただいたときには校長先生から、「スクールカウンセラーさんが来る日があるんですが、その日はもう予約でいっぱいになって足りないぐらいです。」という話をお聞きすることがありました。ぜひスクールカウンセラーを増やしていただきまして、また教育相談体制の充実をお願いしたいと思います。

○事務局　　ありがとうございます。

○事務局　　今、杉岡委員がおっしゃったように教育相談、学校へ安心して通えるような体制と、学力はやっぱり両輪だと思っておりまして、両方がまた関連し合ってくると思っておりますので、そういう意味で先生だけが頑張るのではなくて、様々な専門の知識やら経験のある方等が学校教育に協力してくださるような、そういったことがとても大事じゃないかなと考えております。

○事務局　　ありがとうございます。他にございますか。

○田中教育委員　　非認知能力の話になりますけれども、本当にその言葉どおり、認知ができないので、数値で表したり、それから言語化したりすることがなかな

か難しい領域ではありますが、本市では、自尊感情の育成という形で非認知能力の一つの要素といったらいいでしょうか、それを表現しておられましたけれども、やはりもう少し広い観点といったらいいでしょうか、非認知能力だけではなくてレジリエンスとかコミュニケーション能力とか、デリカシーとか、色々な観点がありますので、もう着手するという、そういうことを既にお聞きしておりますので、重点的にそういったことも施策の中に取り入れていただいたらどうかなと思います。具体的には、そういったものをはかるアンケートのような、そういった、どう言えばいいでしょうか、非認知能力を計るツールも現在、開発されたりしておりますので、そういったものを活用しながらリサーチして方向性を決めていくことも一つだと思います。

○事務局　　ありがとうございます。事務局よろしいですか。

○事務局　　ありがとうございます。現在、非認知能力を計るものとしては全国学力・学習状況調査の児童生徒への質問調査を参考に、それで全てが把握できるわけではございませんが、子どもたちの自己肯定感や有用感、また粘り強く取り組んでいく力などをそこから見ている状況です。今後はまた、今、委員からご示唆いただいたようなことも検討を進めてまいりたいと考えます。今回、この新たな施策の中に「もりぐち学」という形で教材のデジタル化を考えております。こちらは現在、小学校３年生、４年生が使用している守口のことを学ぶ、これは紙媒体の教材がございます。また、中学校においても守口の歴史を学ぶ教材がございますが、この今まで社会科にとどまっていたものを、全教科領域で守口のことを学べるようにデジタル化した、そういった教材を作っていきたいと思っています。こちらは単にインプットするだけの教材ではなくて、子どもたちが学んだことを今度はアウトプットできるようなツール等もしていきたいと考えています。例えば寺方提灯踊り、こういった取組が寺方南小学校だけにとどまることなく、そこで保存会の方から学んでいる様子を例えば動画で撮影し、それを他校の子どもたちも見られる状況をつくりたいと。また、そこで学んだことを、今度、子どもたちが発表している姿なども入れることで、守口市全体の子どもたちで学べるツールにしていきたいと。そういったことを通じて、自尊感情を始め、子どもたちの非認知能力を高めるきっかけになればと考えて立ち上げている施策でございます。以上でございます。

○事務局　　ありがとうございます。

　他に何かございませんでしょうか。

（なしの声あり）

○事務局　　では、ないようですので、次に移らせていただきたいと思います。

　最後の議題、報告事項でございます。令和４年度守口市総合教育会議の今後の予定につきまして説明をお願いいたします。

○事務局　　それでは報告、令和４年度守口市総合教育会議の予定についてをご報告させていただきます。令和３年度の総合教育会議につきましては、本日をもって終了とさせていただくものでございまして、令和４年度におきましては計２

回の会議を予定いたしております。第１回の会議については令和４年５月末から６月頃に、第２次守口市教育大綱に掲げる取組の進捗状況等についてを議題とさせていただくものでございます。第２回会議につきましては令和４年10月から11月頃に開催を予定しておりまして、令和５年度以降の学校教育の充実等に関する意見交換の実施を議題とさせていただければと考えているところでございます。詳細につきましては、開催日が近づきましたら改めて構成員の皆様にご説明させていただくこととさせていただいております。令和４年度以降におきましても、総合教育会議の運営に格別のご協力をお願いいたしたいと存じます。

甚だ簡単ですが、令和４年度守口市総合教育会議の予定についての報告を終わります。

〇事務局　　ありがとうございます。

ただいまの説明につきましてご質問などございましたら、何かございましたらよろしくお願いします。

〇江端教育長職務代理者　　できるだけ早く日にちを決めていただけたらありがたい。

〇事務局　　承知しました。

〇西端市長　　それと、６月に１回目を開催するということで、先ほど私もプレゼンの話をちょっとさせてもらいましたけど、今後、守口の教育としてはこういうふうなことをやっていったら良いという、先生方も色々と思いを持っておられる方がたくさんおられると思いますので、先ほどエナジーホールでやったら良いという話もありましたが、そういうこともこの総合教育会議でもやっていただいたら、先生方もちょっと雰囲気を味わっていただけると、自分のプレゼンしたことが通ったとか、やっぱり先生方の励みにもなると思いますので、１回そんなことをやってもらったらいかがですか。ちょっと考えておいてください。

〇事務局　　教育委員会とも協議しながら、市長のご意見、良いご提案だと思いますのでしっかり進めさせていただきたいと思います。

他にございませんでしょうか。

では本日の議題は以上になりますので最後に何か、全体を通じましてご意見などがございましたらよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

では、ご意見はございませんので、本日は貴重なご意見、ご提案をいただきまして誠にありがとうございました。議事は全て終わりましたのでここでまた一旦、西端市長に議事進行をお戻しいたします。

〇西端市長　　皆さん、ありがとうございました。色々と活発な意見を出していただいて、私も時計を見ながら、気にしながらあっという間に２時間が経ちまして、やはり皆様方のメッセージがひしひしと伝わってくるという今日の教育会議でございました。今後とも守口の教育の発展のために、また委員の皆様にお願いいたしたいと思います。今後も２時間ではちょっと短いかなと思いながら、限られた時間の中ですので議題を絞るとか、ちょっと考えていただいて、今後は回数を増やすとかしていただいてやっていただいたらいいかなと思います。

その節は、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

◇ 午前１１時５７分閉会